

実務経験のある教員等による授業科目一覧 (医療技術学科〔救急救命学専攻〕)

対象 学科	科目名	担当教員	担当教員の主な 実務経験	授業内容
医療技術学科 (救急救命学専攻)	生命倫理	坂口英児	救急救命士として消防署勤務 (1996年～2017年)	医療従事者として必要な生命倫理の基本的概念を理解し、救急救命士としての社会的責務を遂行できる能力を修得することを目的とする。 <u>救急救命士として消防署で勤務した経験を活かした倫理観を修得する授業を展開している。</u>
	関係法規Ⅲ	山本弘二	救急救命士として消防署勤務 (1979年～2015年)	法令の基本、法令の種類、条例及び規則などの定義及び序列について学び、医療における法律体系を理解する。救急救命士に関する法令のほか、救急救命士として必要な医療や消防などの法規について、詳細な知識の修得を目的とする。 <u>消防署で勤務した経験を活かした救急救命士法をはじめとする消防関係の法規を修得する授業を展開している。</u>
	救急現場活動学	安田康晴	救急救命士として消防署勤務 (1985年～2005年)	救急現場活動に必要なコミュニケーションや搬送方法、感染防止対策、病院前救急医療体制などの知識や技術を修得する。 <u>救急救命士として消防署で勤務した経験を活かした病院前救護における救急現場活動学を修得する授業を展開している。</u>
	特定行為処置論	山本弘二	救急救命士として消防署勤務 (1979年～2015年)	各種特定行為を行う上での解剖学的および生理学的な人体の特徴を理解し、確実に特定行為を行うための知識、プロトコルを修得する。また、特定行為を行う際の医師との連携方法について学び、メディカルコントロール体制を理解する。 <u>救急救命士として消防署で勤務した経験を活かした特定行為の考え方を修得する授業を展開している。</u>

実務経験のある教員等による授業科目一覧 (医療技術学科〔救急救命学専攻〕)

医療技術学科 (救急救命学専攻)	救急救命処置演習・実習Ⅰ	山本弘二	救急救命士として消防署勤務 (1979年～2015年)	応急手当てに必要な基本的技術である一次救命処置や搬送法を修得する。 <u>救急救命士として消防署で勤務した経験を活かし、より実践的な授業を展開する。</u>
	救急救命処置演習・実習Ⅱ	山本弘二	救急救命士として消防署勤務 (1979年～2015年)	基本的な救急救命活動の理論及び状況に対応した救急救命資器材の使用方法についての知識と技術を修得させ、救急活動において安全かつ的確に実践できる能力を身に付けさせる。 <u>救急救命士として消防署で勤務した経験を活かし、より実践的な授業を展開する。</u>
	救急救命処置演習・実習Ⅲ	坂口英児	救急救命士として消防署勤務 (1996年～2017年)	救急救命活動に必要な傷病者観察・判断・処置・搬送の知識と技術を修得することを目的とする。 <u>救急救命士として消防署で勤務した経験を活かし、より実践的な授業を展開する。</u>
	救急救命処置演習・実習Ⅳ	安田康晴	救急救命士として消防署勤務 (1985年～2005年)	外傷・疾病の観察理論及び救急救命技術を修得する。 <u>救急救命士として消防署で勤務した経験を活かし、より実践的な授業を展開する。</u>
	救急救命高度演習・実習Ⅰ	山本弘二	救急救命士として消防署勤務 (1979年～2015年)	救急救命士は特定行為を行うことができる。特定行為には気管挿管を含む器具を用いた気道の確保や静脈路確保と薬剤投与、さらに血糖値測定とブドウ糖の投与がある。これらの特定行為を対象とした症例のシミュレーションをとおり、傷病者の観察・判断・処置・搬送が的確にできるように知識と技術を修得する。 <u>救急救命士として消防署で勤務した経験を活かし、より実践的な授業を展開する。</u>

実務経験のある教員等による授業科目一覧 (医療技術学科〔救急救命学専攻〕)

医療技術学科 (救急救命学専攻)	救急救命総合演習・実習	友安陽子	救急救命士として消防署勤務 (1997年～2016年)	救急救命活動に必要な傷病者観察・判断、特定行為を含む救急救命処置及び搬送の知識と技術及び救急シナリオの作成、展開、フィードバックなどの教育技法を修得する。 <u>救急救命士として消防署で勤務した経験を活かし、より実践的な授業を展開する。</u>
	応急手当演習・実習	友安陽子	救急救命士として消防署勤務 (1997年～2016年)	急手当普及員認定制度やその重要性について学び、救命に必要な応急手当を指導するために必要な知識と技術及び指導技法を修得する。また、応急手当普及員資格を取得し、学内の職員や学生に対する心肺蘇生法講習での指導を通じ応急手当を普及させる技術を修得させることができるようにする。 <u>救急救命士として消防署で勤務した経験を活かし、より実践的な授業を展開する。</u>
	救急システム実習 I	友安陽子	救急救命士として消防署勤務 (1997年～2016年)	消防機関(防災センター・消防署)における消防・救急・救助活動の流れや緊急通報システムについて理解する。 <u>救急救命士として消防署で勤務した経験を活かし、より実践的な授業を展開する。</u>
	救急システム実習 III	山本弘二	救急救命士として消防署勤務 (1979年～2015年)	救急車が出動する際に、それに同乗し実習を行う。出動待機中から、出動、実際の救急現場、傷病者の搬送、医療機関への引き継ぎなどあらゆる場面における救急救命士の活動を見学する。これらの救急活動の実体験から、救急業務について学ぶ。また、救急現場での傷病者やその家族への対応について見学することで、救急救命士にとって必要な道徳観についても考える。 <u>救急救命士として消防署で勤務した経験を活かし、より実践的な授業を展開する。</u>

実務経験のある教員等による授業科目一覧 (医療技術学科〔救急救命学専攻〕)

医療技術学科 (救急救命学専攻)	救急システム実習 IV	安田康晴	救急救命士として消防署勤務 (1985年～2005年)	病院実習により救急隊から引き継がれた傷病者の診察・診断・治療の流れや医師、看護師などのメディカルスタッフによるチーム医療の実際について理解する。また、救急患者に接し救急救命処置技術や観察能力を向上させる。 <u>救急救命士として消防署で勤務した経験を活かし、より実践的な授業を展開する。</u>
	精神医学	森本修充	精神科医師として大学病院勤務(1979～1991,1993～2001) 精神科医師として日赤病院勤務(1992～1993)	様々な精神疾患の病態をそれぞれ理解し、その急性期の症状を特に理解する。 <u>臨床の経験を活かし、精神疾患のなかで、どのような疾患が救急搬送が必要になるかを解説する。</u>